テーマパーク力

岩下の新生姜ミュージアム

栃木県栃木市

ショウガパワーで地域を元気に

蔵の街として知られる栃木市に、昨年オープンした新生姜の魅力をアピールする博物館。ピンク色の不思議な空間が話題となって、栃木の新たな観光スポットとなっている。

前身は地元の小さな美術館として親しまれてきた岩下記念館だった。

館内に一歩足を踏み入れると巨大なパッケージのオブジェにピンクのグランドピアノ。なぜかアルパカのぬいぐるみがお出迎え…。そこは一面、ピンク色の世界だった。

このミュージアムを運営するのは、1899年（明治32）創業の漬け物製造販売会社である岩下食品（本社・栃木市）。看板商品の「岩下の新生姜」は爽やかな酸味と程よい辛みが人気で、熱烈なファンが多い。ピンクは新生姜のイメージカラーだったのだ。

昨年6月のオープン以来、館長として最前線で宣伝活動を行っているのは、同社社長の岩下和了氏（50）。

「時代の流れもあって、漬け物市場は縮小傾向。このままだと先がないということで、新生姜の魅力を多くの人にアピールする場所を作ろうと思ったのがきっかけです」

広い館内には、新生姜について学べるギャラリーの他、顔ハメ撮影ができる世界一巨大な新生姜ヘッド、岩下漬け体験コーナー、ミュージアムショップなど、新生姜尽くしの施設がこれでもかと並ぶ。

また、ショウガのパワーで栃木を元気に応援しようという地域活性プロジェクト「蔵の街・栃木市×岩下の新生姜TOCHIGI GINGER POWER」も始動。岩下の新生姜を使ったオリジナルメニューを提供する市内の店舗のマップを館内に掲示するなどしている。

特筆すべきは、「ジンジャー♥神社」だ。新生姜を角に見立てた鹿が狛犬の代わりに鎮座するというぶっ飛び具合だが、絵馬やおみくじも大人気のよう。御祭神は「鹿角生姜命（しかつののしょうきょうのみこと）」。恋愛成就、夫婦円満、健康長寿と、ご利益も万能だ。

一般的な企業系ミュージアムとは一線を画す、この脱力具合が話題を呼んで、若い世代は情報をSNSで拡散し、年配のグループは毎日のように観光バスで訪れる。

オープン前は周囲から「誰も来ないよ」と言われ、自分でも大ゴケの可能性を心配していたと振り返る岩下氏。企画時、人は何に感動するのかと考えた末に出した答えは「かわいい」「大きい」「同じものが大量にある」の3点だったという。なるほど、館内はこの3点で満ちている。

左上／ピンクの鹿が守護獣のジンジャー♥神社（写真：岩下食品）
右上／斬新なコラボ商品が並ぶ
中／自動販売機で売られているのはジュースではなく新生姜風味の浅漬けの素。
左下／カフェニュージンジャーでは全てのメニューに岩下の新生姜が使われている。

左／ユニークな広報戦略に定評のある岩下和了社長。

「来た人に楽しんでもらえる施設にするために、展示やアトラクションはタブーなしで社員一人ひとりのアイデアを尊重し、多数決で決めなかったことが、成功の要因だろう。

展示とアトラクションを堪能したところで、お腹も空いてきた。さっそく、カフェで「エスニック肉巻きプレート」（980円）と「手作りジンジャーエール」（450円）を注文。これが、びっくりするほど美味しかった。

「すべてのメニューに新生姜を使っていて、新しいレシピも常に開発中。どれもここでしか食べられないんですよ」

ミュージアムショップには他の食品メーカーとのコラボ商品が充実している。しかも、みかんジュースやチョコレートなどという、〝攻め〟の姿勢が感じられるものばかり。

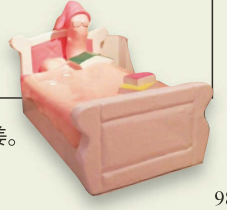
「岩下の新生姜」は来年で発売30周年を迎える。「多数決で決めない」スタイルで、どんな〝攻め〟を見せてくれるのか、今から楽しみだ。

駅へ戻る途中、巴波川（うずま）川沿いの「蔵の街」エリアを散策。船頭付きの遊覧舟が浮かぶ素敵な風景でした。「新生姜ミュージアム」においでの際は、こちらも合わせてどうぞ。

（石原たきび）

DATA

年間入場者数●約7万人（累計）
住所●栃木県栃木市本町1-25
アクセス●JR両毛線・東武日光線栃木駅から徒歩12分
休館日●月・火曜日（祝祭日は除く）、年末年始
入場料●無料
（ライブやイベント時は別途チケット料金がかかる場合あり）
開館年●2015年
URL●http://shinshoga-museum.com
運営者●岩下食品株式会社


ベッドでくつろぐ新生姜。